

『キラメキの発想』 2025 年 4 月 14 日放送用補足 Q&A

ラジオ NIKKEI 『キラメキの発想』で OP 売坊先生が使用した資料の補足 Q&A です。

＜資料 P2＞

——先生には 40 年を超える相場歴があるわけですが、その経験からしても「トランプ要因」というのは異常でしょうか？

かなり異常な状況でしょう。トランプ大統領のインサイダー問題や献金問題など、日米の政治家が法律などを軽視する状態が続いているのは株式投資のリスクです。

——日経平均が 3 月下旬の 38000 円近辺から 4 月上旬の 31000 円近辺まで一気に 7000 円幅の下落となりました。この急変で、かなり傷んでいる市場参加者がいるとすれば、内部要因的に上値は、かなり重くなりそうと考えられるのでしょうか？ それとも 6 月限の先物は始まったばかりなので、それほど因果玉は多くないと考えられるのでしょうか？

日経 225 先物 6 月限の価格帯別出来高をみると、かなり広がっていると分かります。買い方も売り方も因果玉を抱えており、乱高下が続く可能性がありそうです。

＜資料 P3＞

——日経 225OP25 年 4 月限 36000PUT の日足を掲載したのは、なぜでしょうか？

PUT の値動きの速さを確認していただければと思います。

——日経 225OP25 年 4 月限 PUT の終値と証拠金の推移を掲載したのは、なぜでしょうか？

チャートは 36000PUT ですが、ATM からさらに離れた PUT のほうが、変化率が大きいと分かります。これも OP の特徴です。

——これを見ただけでも PUT の売り方は OP 価格（プレミア）の上昇だけでなく、証拠金

の爆増で大変だったでしょうね。

ご指摘のとおりです。リスクを厳正化するために JPX（日本取引所）が採用した VaR 証拠金計算方式によって、かえって市場のボラティリティを上げてしまっている状態でしょう。

——同表の赤字と青字は何を示唆しているのでしょうか？

1 行ごとに色を付けて表を見やすくしました。赤は最大の倍率です。

<資料 P4>

——SNS で世界最大級のヘッジファンドである農中がトランプショックを受けて含み損となっている米国債を投げ急ぎ、米国債利回りが上昇（米国債価格が下落）したことが、トランプ大統領が翻意する一因になったという話が出ています。先生は、これについてどう思いますか？

農中の投げは、あり得るでしょう。さらに、中国が米国債を投げると米国債の利回り急騰、米国株が下落するリスクがあります。

——財政赤字に取り組んでいるトランプ大統領が米国債の投げ売りによる利回りの上昇を恐れているとすれば、最大の債権国である中国にケンカを売るのは矛盾しているのではないのでしょうか？

いわゆるポーカー的な交渉ですね。心理戦です。

<資料 P5>

——日本と中国の市場休場日を掲載したのは、なぜでしょうか？

ゴールデンウィーク、決算発表とまだまだ不安定な状況が続くと考えています。

——中国市場がレイバーデーで休場となる 5 月 1 日・2 日に米中関係に何かがあれば、連休明け 5 月 7 日の日本株市場は、かなり警戒すべき状況になり得るということでしょうか？

ご指摘のとおりです。要注意日です。

<資料 P6>

——今回の暴落で国内債、外国債、国内株、外国株で運用している GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）はクアドラプルパンチを受けた状態でしょうか？

かなり厳しい状態でしょう。

——先生は3月中旬の時点で「S&P500 の下落で結構痛んでいるヘッジファンドや機関投資家もあり得るのでしょうか？」という質問に「下げが下げを呼ぶグレイ・リノになる可能性は否定できません」と回答されました。さらなる暴落でかなり傷んでいるところが出てきて、それが FRB（米連邦準備理事会）経由でトランプ政権の朝令暮改「相互関税 90 日猶予」につながったとも考えられるのでしょうか？

一番の理由は米国債利回りの上昇だったと思います。これは優先順位の一番である米国の財政問題をさらに悪化させるからです。

<資料 P7>

——「日経平均が 450 円以上動いた日の値幅」を掲載したのは、なぜでしょうか？

ここにきて、さらに頻繁に起きていくと分かります。％でないの、株価水準が高ければ頻繁に起こりやすいという側面もありますが、やはり変動は大きくなっていると思います。

——「日経平均が 450 円以上動いた日数」を掲載したのは、なぜでしょうか？

こちらは頻度の数字的なものです。

——最近は毎日のように「450 円以上」動いている印象がありますね。

先週などは毎日 1000 円以上の乱高下です。異常事態ですね。

<資料 P8>

——**日経平均 CFD と米ドル円のチャートを掲載したのは、なぜでしょうか？**

現在の相場見通しです。日経平均は多少戻りましたが、まだまだ下落を警戒しています。また、さらなる円高もまだまだ想定しておきたいと考えています。ドル円 140 円割れによる日経平均 30000 円割れもあるかもしれません。

<資料 P9>

——**「OP トレードの本質」を掲載したのは、なぜでしょうか？**

このような相場環境では OP の利用が重要でしょう。金融商品としての OP の本質の理解はとても重要だと考えています。

——**例えば、売坊流日経 225CALL 戦略の場合、売る CALL のプレミアム（OP 価格）に「合理的価値（その商品が本来持つ経済的価値）」があるか明確にするということでしょうか？**

その側面もございます。

——**大口プレーヤーとの心理戦とは、例えばどのようなことでしょうか？**

日本の OP 市場は米国と比べてみると資金量の大きな市場参加者に明らかに有利で、勝ちやすい市場です。さらに、日経平均が平均株価ということで裁定取引が安易にできるという面があります。したがって、大口プレーヤーの動向がとても重要だということです。

<資料 P10>

——**ルーレットと OP トレードの違いを掲載したのは、なぜでしょうか？**

比較をすることで、OP の特質を際立たせることができると思ったからです。

——CALL 売りトレードで受け取るプレミアム（OP 価格）の額を決めていて、損切り値を決めていても、確率が一定ではないのでルーレットとは異なるということでしょうか？

OP の売り手はルーレットではディーラーの立場になります。その結果、ルーレットとは違った形になります。

<資料 P11>

——「**ルールの把握と3つの側面**」を掲載したのは、なぜでしょうか？

OP トレードで成功するために OP 売坊が考えている3つの側面です。

——「**3つの側面**」とは、なぜでしょうか？

3つの視点ということです。

——「**3つの側面**」と「**本質**」は異なるのでしょうか？

本質を理解するため、3つの視点から、その特徴を見極めることが重要だと考えています。

<資料 P12-13>

——S&P500、10 年物米国債利回り、米ドル指数、NY 金先物のチャートを掲載したのは、なぜでしょうか？

同様に現状をテクニカルでみたものです。

——下段に HV（ヒストリカル・ボラティリティ）を掲載したのは、なぜでしょうか？

各商品ともボラが上がっています。まだまだ乱高下があるということです。さらに、さまざまな金融商品が、いわゆる「共鳴」をしている状態です。

<資料 P14>

——売坊流では日経 225OP 市場で単体 PUT 売りではなく、ベア PUT スプレッド（PUT 買い+より低い権利行使価格の PUT 売り）の利用を紹介しているのは、なぜでしょうか？

日経 225OP の PUT 売りは自己破産もあり得るリスクの高い戦略です。一方、PUT 買いよりもベア PUT スプレッドのほうが、戦略が当たった場合、効率が高い組み合わせが多いからです。

——先生は日経 225PUT の単体売りは非常に危険だとおっしゃっていますが、ベア PUT スプレッドで PUT 売りを使うのは怖くないのですか？

基本、売りと買いが 1 対 1 であれば、そのポジションはプレミアム（OP 価格）の差だけの損失限定の戦略となります。

——米国株・ETF-OP では現在値から 75%下の権利行使価格の PUT 売るとのことですが、例えば、100 ドルの米国株に権利行使価格 25 ドルの PUT があるのでしょうか？

もっと低いものも探せばあります。米国株 OP は対象となる銘柄が先週末で 5600 以上あります。さらに、SPY（S&P500 連動型 ETF）の OP には 2027 年 1 月 15 日満期というかなり先のものもあります。その中からお宝を探していくわけです。これら発掘する視点などを通信講座でお伝えしています。

——また、そのような PUT が権利行使をされて現物を購入しなくてはならなくなった場合は倒産リスクが高くなっているのではないのでしょうか？

個別株であれば倒産リスクはあります。しかし、1 枚の PUT を売ったのであれば、その行使価格で 100 株買う金額が最大のリスクです。例えば、権利行使価格 10.00 ドルの PUT を 1 枚売って、それが行使されたならば 100 株を 1000 ドルで買い取ればよく、それ以上の損失はないということです。

倒産リスクを避けるためには、業績などを確認する必要があります。なお、上がる株を見つけるというよりも「行使日までの限られた期間で、その水準にまで下がらなければいい」ということになります。

さらに、金や銀などは基本無価値になるとは考えていませんので、その PUT を売って、行使されても、それを元手に CALL を売りつづけるカバード CALL 戦略が有効だと思います。この二段階戦略を「ホイール戦略」と呼んでいます。

——FX-OP でストラングル売りをする場合、基本的には FX がレンジ相場になるという考え方でしょうか？

上限と下限を想定してのトレードです。

——ドル円のレンジを予測するのは難しいのではないのでしょうか？ それとも OP 満期までの下限上限（例えば 130～160 円）を想定するやり方でしょうか？

主要通貨間であれば、ある程度の限度もあります。トルコ・リラやアルゼンチン・ペソは想定していません。もっとも、今後、日本円も主要通貨でなくなる懸念があります。

——通常、豪ドル／NZ ドル（AUDNZD）はレンジになりやすいです。とはいえ、トランプ相場でそれを想定するのは怖いのではないのでしょうか？

相対的な問題です。AUDNZD は比較的同じ方向で影響を受けやすいとも考えられるでしょう。

【免責事項】

本テキストの図表・数値などは、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・信頼性・完全性を保証するものではありません。

本テキストに掲載された情報・図表・資料は、あくまで情報提供を目的としたものです。証券など金融商品の売り買いを提案・勧誘するためのものとして、また証券など金融商品について助言・推奨するものとして、利用・解釈しないでください。

本テキストは一般向けに編集されています。特定の投資目的・特定の投資環境・特定の投資家を一切考慮していません。事前に専門家の適切な助言を受けるべきですし、最終的な投資判断は、個々人が個々の状況を考慮して、自らの責任で下すようにしてください。

本テキストに基づく行為の結果、発生した障害・損失などについて筆者およびパンローリング社は一切の責任を負いません。

本テキストに記載された URL などは予告なく変更される場合があります。

本テキストに記載されている会社名・製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。